



2019 **11**

目次

- 1. 第42回全国土地改良大会岐阜大会が開催される ..... (2)
- 2. 宮崎県農地集団化推進協議会が令和元年度委員会を開催 ..... (4)
- 3. 清武町土地改良区が理事会及び現地研修会を開催 ..... (4)
- 4. 国富町土地改良区合同事務所が第12回全体研修会を開催 ..... (5)
- 5. 宮崎県、綾町が水土里の路ウォーキングin綾を開催 ..... (5)
- 6. 九州農政局西諸農業水利事業所が完工式を開催 ..... (6)



水土里の路ウォーキングin綾 (5ページに関連記事)

## 第42回全国土地改良大会岐阜大会が開催される 清流で未来をうるおす土地改良 ～ 水土里の恵みを新たな世代へ～

去る 10 月 16 日、全国水土里ネット（二階俊博会長）と水土里ネットぎふ（藤原勉会長）は、岐阜メモリアルセンター「で愛ドーム」にて、全国の土地改良関係者約 4,000 名参加（本県から 56 名参加）のもと、第 42 回全国土地改良大会岐阜大会を開催した。



大会旗入場



水土里ネットぎふ 藤原会長

大会は、オープニングセレモニーが行われた後、甚大な被害を出した台風 19 号の犠牲者を悼み、参加者全員による黙とうが捧げられ静かに幕を開けた。

式典に移り、藤原会長が開会挨拶した後、二階会長が主催者を代表して「今年発生した豪雨並びに台風 15 号、19 号によってお亡くなりになられた皆様のご冥福を心からお祈り申し上げますとともに、被災された方々に対してお見舞い申し上げます。国として出来ることは全て行う方針のもと、あらゆる関係機関と協力し生活再建に向けて全力を尽くします。また、進藤金日子参議院議員に続いて宮崎雅夫参議院議員の誕生で、土地改良の専門家は 12 年ぶりに二人体制となり車の両輪を得た。二人には皆様からの激励を胸に先頭に立って予算確保は勿論、土地改良発展のため力になってもらう。『闘う土地改良』を継続していくためにも、皆様のより一層の支援をお願いします。」と挨拶した。

続いて古田肇岐阜県知事、柴橋正直岐阜市長が歓迎のことば、来賓の伊藤良孝農林水産副大臣、野田聖子衆議院議員（岐阜県選出国會議員）、水野正敏岐阜県議会副議長、進藤金日子全国水土里ネット会長会議顧問、宮崎雅夫全国水土里ネット会長会議顧問がそれぞれ祝辞を述べた。

引き続き土地改良事業功績者表彰が執り行われ、農林水産大臣表彰 6 名、農林水産省農村振興局長表彰 16 名、全国土地改良事業団体連合会長表彰 41 名がそれぞれ受賞した。本県からは、西田久雄水土里ネット綾町理事長が全国土地改良事業団体連合会長表彰を受賞した。

基調講演に移り、奥田透農林水産省農村振興局次長が「未来を潤す土地改良」を講演した後、株式会社寺田農園、農事組合法人本戸営農組合が優良事例地区として取り組み状況等を発表した。

全国水土里ネット  
二階会長全国水土里ネット会長会議  
進藤顧問全国水土里ネット会長会議  
宮崎顧問

その後大会宣言に移り、岐阜県立恵那農業高等学校の鵜飼太謙さんと林杏実菜さんが「本日ここに集う私たち水土里ネットは、『清流で未来をうるおす土地改良～水土里の恵みを新たな世代へ～』を合言葉に、未来の懸け橋である土地改良を、豊かな恵みである水土里を新たな世代へ引き継いでいく。」と宣言した。

最後に次期開催県である群馬県の紹介があり、大会旗が水土里ネットぐんまへ引き継がれた。その後、熊川栄水土里ネットぐんま会長の代表挨拶に続き、水野光二水土里ネットぎふ副会長が閉会挨拶し、大会は盛会裡に終了した。



大会宣言



大会旗引継



翌日は、岐阜県就農支援センターと高須輪中土地改良管理センターの事業視察を行った。

#### ◆岐阜県就農支援センター

同支援センターは岐阜県が管理運営する「冬春トマト」の新規就農者育成研修施設で、平成 26 年に開設され、現在 6 年目（6 期生）を迎え、これまでの 5 年間で 20 名の新規就農者（栽培面積 413.3ha）を育成している。県が開発した「トマト独立ポット耕栽培システム」により、トマトの栽培技術や農業経営に必要な知識・技能等について、講義・栽培実習等を実施し岐阜県内での就農を条件に、県外からも研修生を受け入れている。



事業視察の様子

#### ◆高須輪中土地改良管理センター

高須輪中地域では、国営かんがい排水事業で造成した揚水機場で農業用水を取水し、幹線用水路を経て県営事業等で造成した 22 の揚水機場と末端送水管によって約 3,000ha の農地を潤し、水稻を中心に水田の汎用化による小麦、大豆、野菜等を組み合わせた大規模な土地利用型農業が展開されている。現在は大規模営農法人により、水稻、小麦、大豆の 2 年 3 作体系が確立され、担い手への農地集積率も全国平均の 56.2% を大きく上回る 71.5% となっている。



事業視察の様子

## 本県の土地改良事業功績者表彰受賞者

### 西田久雄水土里ネット綾町理事長が全国土地改良事業団体連合会長賞を受賞

氏は平成 2 年 4 月に理事に就任し現在に至るまでの約 29 年、土地改良区役員として土地改良事業の推進、土地改良施設の維持管理及び組合員との調整役として中心的な役割を担ってきた。平成 26 年 4 月からは副理事長として綾町長である理事長の補佐役という立場で、持ち前の行動力、発言力を遺憾なく発揮し組合員からの厚い信頼を受け、令和元年 5 月から理事長に就任。これらの実績は、氏の卓越した指導力、統率力と 29 年の長きに渡り一貫した信念と情熱の賜物であり、組合員からも絶大な信望を得ながら誠心誠意職務に専念する姿勢や、地域農業安定の基礎を築いてきた功績が認められた。



## 宮崎県農地集団化推進協議会が令和元年度委員会を開催

去る 10 月 7 日、宮崎県農地集団化推進協議会（高妻経信会長：高原町長）は、宮崎県土地改良会館 4 階研修室にて、委員 7 名出席のもと令和元年度宮崎県農地集団化推進協議会委員会を開催した。同協議会は、換地及び交換分合を積極的に推進し、もって農業生産力の発展を図り農業経営の合理化に寄与することを目的としている。

はじめに、高妻会長を議長に選任し会長 1 名及び副会長 1 名の互選が行われ、会長に高妻高原町長、副会長に原田博史水土里ネット延岡市理事長をそれぞれ再任した。

続いて高妻会長が挨拶した後、議事に移行り平成 30 年度事業報告を含め 4 議案が審議され、いずれも原案どおり承認された。

また、令和元年 12 月 23 日（月）に令和元年度優良地区宮崎県農地集団化推進協議会会長表彰式及び令和元年度宮崎県農地集団化事業に関する研修会の開催を予定している。



委員会の様子

## 清武町土地改良区が理事会及び現地研修会を開催

去る 10 月 24 日、清武町土地改良区（大久保利政理事長）は、関係者 15 名出席のもと清武総合支所 1 階大会議室にて理事会を行った後、現地にて研修会を実施した。

はじめに、大久保理事長が「今年の 3 月、調圧施設の不具合で地区によっては農業用水の供給が 3～4 日間行えない事態となった。施設の維持・補修に必要な費用を土地改良区の予算のみで継続的に対応することは困難である。今後も安定的な農業生産を続けるためには、我々土地改良区と関係機関が更なる連携を図ることが重要となる。本日は現地で施設の確認・点検も予定しており、各専門家の指導・助言を頂戴したい。」と挨拶した。



理事会の様子

続いて、柳田哲郎大淀川右岸土地改良区主査が地区内調圧施設の設置位置や不具合を起こす原因等を説明した後、現地に移動し出席者全員で調圧施設（減圧水槽、減圧弁）を点検した。研修会終了後、大久保理事長は「今後もこのような研修会を定期的に行い、土地改良区役員及び関係機関が共通認識を持ち続けたい。」と話した。



現地研修会の様子

## 国富町土地改良区合同事務所が第12回全体研修会を開催

去る 10 月 24 日、国富町土地改良区合同事務所（宇留島兼光運営委員長：水土里ネット木森井堰理事長）は、土地改良区役員及び行政関係者約 30 名出席のもと、現地及び国富町役場第1会議室において全体研修会を開催した。

研修会は、はじめに綾川総合土地改良区が管理する綾川用水「上の原調整池」にて現地研修を行った。綾川用水は、綾北川の上流に綾川総合開発事業で築造された古賀根橋ダムを水源とし、国営綾川土地改良事業及び関連事業で建設された農業分水路、導水路、幹線用水路及び県営用水路等により地区内の畑及び水田へ用水を供給しており、「上の原調整池」が導水路と下流の幹線水路の供給遅れを補うための調整容量を確保する施設として役割を果たしていることなどが説明された。

その後、会場を第1会議室に移し、甲斐岳彦中部農林振興局農村計画課長、長嶺善行国富町農地整備課長、三好亨二水土里ネット宮崎常務理事ほか関係職員を交えて事務研修が行われた。研修は、事前に土地改良区から出された質問について、関係機関が回答する形で進められ、農業者の減少による今後の土地改良区運営や適切な施設の維持管理方法、さらには、改正土地改良法にかかる事務手続など多岐にわたる内容について意見が交わされた。三好常務理事は「土地改良区と多面的支払交付金活動組織が密な関係を構築したうえで、制度の柔軟な活用により円滑な土地改良区運営に結びつけていただきたい」と述べた。



現地研修の様子



事務研修会の様子

## 宮崎県、綾町が水土里の路ウォーキング in 綾を開催

去る 10 月 26 日、宮崎県（農村計画課、中部農林振興局）及び綾町は、一般県民に対し用水路などの土地改良施設の役割や、地域農業の現状及び農業の必要性さらには、農業・農村の持つ多面的機能について理解を深めてもらうことを目的に、約 100 名の参加のもと綾町にてウォーキング大会を開催した。

はじめに、主催者を代表して小野正寛農村計画課長が開会宣言した後、日高正裕中部農林振興局長が挨拶し、引き続き共催者を代表して粉田学綾町長が挨拶した。

参加者は、綾町錦原台地の花時計広場をスタート・ゴールとする全長約7kmのコースを、秋の紅葉樹林をながめながら、清らかな綾北川や自然生態系農業を推進する綾町の農地へ水を供給する農業用パイプラインなどの農業用施設を見学し、それぞれのペースで歩いた。また、コース途中に設けられた農業農村整備事業に関するパネル展示場では、綾町や農業についてのクイズもあり賑わいを見せていた。ゴール後には、おにぎり、豚汁などの昼食が準備され、さらには記念品として綾町特産品のお土産もあり、大会参加者は有意義な時間を過ごした。



開会式の様子

### 【参加者感想】

「散水器を初めて間近で見た。パイプが各畑まで引いてあることにびっくりした。」  
「とても良いコースだった。農村の風景が良かった。」



ウォーキング大会の様子

## 九州農政局西諸農業水利事業所が完工式を開催

去る 10 月 29 日、西諸農業水利事業所は小林市の小林文化会館（大ホール）にて、農林水産省及び関係者約 210 名出席のもと国営西諸農業水利事業完工式を開催した。

オープニングセレモニーでは、地域の郷土芸能「水流神楽（演目：田の神舞〔たのかんめ〕）」（えびの市）、「狭野神楽（演目：舞上〔まいあげ〕）」（高原町）や、西小林保育園の園児による「子供太鼓（演目：屋台囃子〔やたいばやし〕）」（小林市）が披露され会場を和ませた。



水流神楽：えびの市



狭野神楽：高原町



子供太鼓：小林市

式典に移り、横井績九州農政局長が「本事業により整備された農業水利施設が適切に利用され、本地域の農業がさらに発展し、豊かな農村社会が形成されることを祈念する。」と式辞を述べた後、江藤拓農林水産大臣（安部伸治農村振興局整備部長代読）が「農業農村整備事業は、令和という新しい時代に農業の競争力強化、農村地域の国土強靱化の実現、若者が夢と希望を持てる魅力ある成長産業として持続的な発展を遂げるため、これまで以上に重要な役割を担っている。今後整備された施設の機能を十分に発揮し地域の特色を活かした豊かな農業・農村づくりが進められ新たな歴史を刻むことを期待する。」と挨拶した。

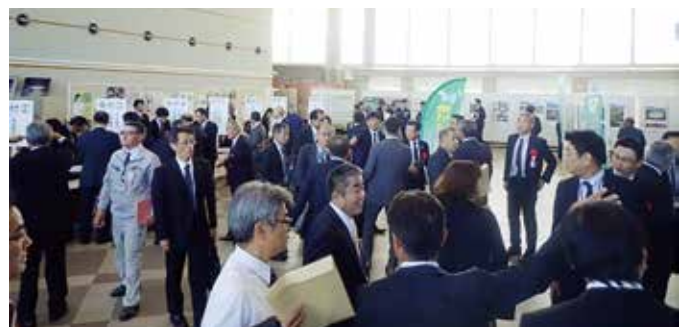


完工式の様子

続いて、松田文秀事業所長が『水は宝、西諸の畑に生農地（いのち）の水を』というスローガンを掲げ、小林市、えびの市、高原町に広がる農地 4,150ha を対象に、平成 8 年から 24 年をかけ実施してきた本事業について、ダムの建設からファームポンドの造成等の説明をし、併せて県営事業が完了した地区の一部では、既に浜ノ瀬ダムの水を利用し、天候に左右されない計画的な栽培や出荷、高収益作物を導入した営農が展開されていると事業経過報告をした。

その後、河野俊嗣宮崎県知事（郡司行敏副知事代読）が「本施設の完成により安定した水源の確保と畑地かんがい用水の供給という長年の悲願が実現したことは、天候に左右されない生産性の高い営農が可能になることに加え、畑地かんがいの整備や担い手への農地集積へと大いに弾みが付くものと期待する。県営事業実施並びに推進中の地区を計画的に進め、一日でも早く各地域に生農地（いのち）の水が供給できるよう全力で取り組む。」と祝辞を述べた。

最後に、前田喜輝水土里ネット西諸理事長が「事業推進に協力頂いた関係者の方々へ感謝の意を表すとともに、最新の技術をもって造成された土地改良施設を有効に活用し、これを機に一層の営農意欲を高め、経営が安定するよう事業の推進を図る。」と力強く謝辞を述べ、完工式は盛会裡に終了した。



パネル展示会場の様子